

入舟 コミ協だより

第18号

発行: '16.9.24

発行所: 入舟小学校区

コミュニティ協議会

責任者: 田村 幸夫

TEL 223-3532



第4回入舟コミ協 敬老会 福祉文教部会 古寺昭治

いわゆる65才以上の人口が30%を超える(新潟市の高齢化率は7.1現在27.5%) 当下町地域ではその長寿をお祝いし、又地域の方々の親睦と交流を図りながらお互いの絆を更に深めて頂くべく、この行事を実施するものです。

今般第4回入舟コミ協敬老会(兼第6回しもまちお互いさまランチ)が9月18日(日)日和山小学校にて開催されました(初回は平成25年9月)。110名の参加の方々には小学校のふれあいホールにて、

女性ポップス”デュオ「ブルースカイブルー」による歌唱
新潟弁で語る「中野小路こみまる」による防犯漫談

などのショウを、爆笑とともに楽しんで頂きました。その後、ランチルームに場所を移した昼食会です。

通常の”ランチ”イベントでは、調理ボランティア(コミ協婦人部20名)の手作りのおもてなしさせて頂いていますが(調理作業時間;約2時間半)、今回は敬老会であるので外注の豪華版スペシャルランチ弁当を準備致しました。さらにボランティアが調理したオリジナルな豚汁を添えておもてなしさせて頂きました。

参加者の平均年齢はおおよそ75才で、女性が7割を占めています。喜寿(77才)は勿論のこと傘寿(88才)以上の方にも足を運んで頂きました。

今回参加できなかった方も次回にはご一緒に如何でしょうか



新潟柳都中・ 早川堀七夕プロジェクトに協力

安全・環境部会 高橋 誠一

本年七月七日今年も柳都中学校三年の総合学習として、早川堀通りで賑わいづくりが行われました。施設のお年寄りをお誘いしてのけん玉・竹とんぼ・ボーリングなど昔の遊びや地域の方々への冷たい飲み物のサービスなどを行い大変喜ばれておりました。また柳都中学校全生徒から願いを書いてもらった短冊を飾った笹の木を早川堀通りに願いを込めながら一本一本飾りつけしました。私たち安全環境部会の部員



はその生徒さんたちの活動をサポートしました。

当日の様子は後日中央区だよりに掲載され柳都中学校生徒さんの活動が評価されました。私たち安全環境部会は地域の安心安全活動はもとよりこのような地域活動も応援しております。

運動 地域と学校をつなぐ地域教育コーディネーター⑧
早川堀通りで七夕祭りを企画、柳都中

柳都中では総合学習の一環で自分たちが住む町について学んでいます。この学習をきっかけに、早川堀の復活が地域の皆さんの熱い思いで実現したことを知った3年生。自分たちも地域のために行動したいと「早川堀通り七夕祭りプロジェクト」を企画し、今月7日に開催しました。

生徒らはこの日に備えて地域の皆さんに早々の開催案内やポスターを事前に配布し、当日は七夕らしさを演出しようと早川堀通りに笹を設置。短冊に願い事を書くブース、けん玉や、竹とんぼやしゃぼん玉など遊びを体験できるブースを用意し来場者をあなせました。

企画する立場として地域に関わるのは初めてだった平野後祐さんは「地域の皆さんがくれたので頑張って準備をしたかったです。自分たちが考えた企画で早川堀通りの熱れ合いが増えて嬉しいです」と話しました。

地域コーディネーターの山田正子さんは「昔遊びのブースはこの地域に高齢者が多いことを踏まえて生徒たちが提案したことをより深く知ったことに加え防災訓練など日頃の地域の皆さんとの関わりが、生徒たちの『みんなのためにこういうことがしたい』という自主的な気持ちにつながったのだと思います」と話します。「大人になっても進んで地域と関わりこの町の発展に貢献したいです」と話していました。

【写真上】昔には白和山の山麓に事務所が併せてあった早川堀の歴史を語りながら、七夕祭りを企画しました。

【写真下】昔には白和山の山麓に事務所が併せてあった早川堀の歴史を語りながら、七夕祭りを企画しました。



ハイパージュニアレスキュー(事前講習会)

自主防 明間隆博

7月25日Am9:00より新潟市体育館でハイパーレスキュー講習会が開催されました。最初に中越防災安全推進機構の野村卓也講師から熊本でのボランティア活動のお話で、避難所運営での難しさを改めて知らされました。個人情報なので避難者カードの記入はできないという方には記載が安否確認に必要と説明をしても了解されず難儀したとのこと。トイレの使用について、参加者から自主防災で簡易トイレを備蓄しているのが



足りない、後始末は？ などの質問がありました。別の参加者はマンホールを段ボールなどで囲い、使用するしかないのでは、との話がありました。

その後、参加者全員、野外で発電機の操作訓練・投光器の操作訓練をしました。発電機の燃料は今では備蓄が簡便なガスボンベが使用されています。また、体育館では高齢者や障害者のプライバシー保護のため、段ボールでのベッド作りを全員で実践しました。その後アルハア米を試食し当日の講習会を完了し解散となりました。



〔日和山小跡へのコミセン移転の 部屋割り案〕

副会長 鈴木 喬

(1)日時;16.7.26(火)18:30~20:30

(2)会場;入舟小 絆ルーム、

(3)出席者;長浜地域課 課長、戸嶋課長補佐、金成係長、地域振興担当小暮、中央図書館 小林管理課長、松田サービス課長 (兼舟江図書館長)、サービス課課長補佐真鍋、サービス課伊藤係長(舟江図書館担当)コミ協跡地委員;出席者15名

(6) 部屋割り案;(区役所の提案)

†1階部分;コミセン管理室、入舟連絡所、入舟健康センター、地域の交流空間

†2階部分;音楽練習室、2教室、展示スペース、大ホール、小ホール2)

†3階部分;図書館、和室2、学習スペース 武道場、大ホール、小ホール

†4階部分;コミ協事務室、社協事務室、和室2、小ホール1、大ホール1、備品保管庫

†5階部分;音楽室、調理実習室、中ホール 備品保管庫、防災備蓄庫計4室

†外構部分;グランド;公共施設がなければ売却
<駐車場>⇐プール解体後駐車場とする
<消防団の小屋>⇐(体育館脇の小屋

(4)移転完了までのスケジュール;

H28年度基本設計、H29年度日和山小移転、H30年度工事、H31年度供用開始。

(5) 移転計画の前提;①学校からの用途変更で、制限が追加され、構造上加重の制約。②コスト削減のため、制約のある部屋は移動しない(図書館)、③既存設備を活用(音楽室、調理実習室、可動間仕切り)、④文化教養と運動活動を二つのゾーンにまとめる。

(7)後日(8/10)跡地委員会での議論;

①図書館について;蔵書数58,000冊あった旧舟江図書館を、二つの教室にあて、蔵書数で約1/5に縮小し、更に将来的に舟江図書室への降格も視野に入れている提案である。

*緊急避難先として、区役所案を認めざるを得ないが今後、コミ協として次のことを要望する。

(i) 最低3万冊を収容できる書庫の確保。

(ii) 最低30席の読書席併設

(iii) 今後、舟江図書館を、こども図書、マンガ、育児図書あるいは映像ライブラリに特化し、安らぎの空間をもつ新しいタイプの図書館へと脱皮させる。

②保育園について:老朽化した入舟保育園を新築する件;現在、保育課として保育園を新設する考えはない。しかし、区として、これから市内の公共施設(保育園を含め)設置の要望を正式にを調査し、結論する。



日和山小学校の活動

地域教育コーディネーター 小島良子

平成28年8月1日、夏休み真っ只中、日和山小学校体育館に6年生の子どもたちが集まり、新校舎へ思いをつなぐレリーフ作りを行いました。日和山小学校第二回卒業生になる子どもたちは、新しい校舎に通うことになる在校生を応援する気持ちを形にし、心を込めて丁寧に作成していました。

このように小学校では、新校舎に向けた対策が進み、職員は日々の活動と同時進行で、次年度に向けた計画や準備を始めています。校舎の場所は

変わりますが、通う子どもたちは一緒です。今後も日和山小学校に通う子どもたちが毎日笑顔で通学できるよう、見守っていただけると嬉しいです。



コミ協の活動状況

総務部会 高山ゆり子

① 5.8 第24回お互いさまランチ(参加86名)

② 6.5 入舟地区コミュニティ協議会総会
(出席56名)

日赤入舟分団総会・入舟地区社会福祉協議会
入舟地区自主防災会総会・入舟地区防犯協会
総会を同日に開催

③ 7.10 第25回お互いさまランチ(参加89名)

④ 7.18 海岸一斉清掃

⑤ 7.26 跡地検討会(参加24名)

(地域課課長他 行政より8名出席)

⑥ 7.31 ライフビーチイン新潟

⑦ 8.10 跡地検討会(参加14名)

⑧ 9.18 第26回お互いさまランチ／第4回
敬老会(参加 108名)

⑨ 9.23 コミ協だより(第18号)発刊

⑩ 9.23 跡地利用検討会勉強会
(参加;区3名、企業3名、地域27名)

⑪ 9.24 安全パトロール(参加50名)

⑫ 10.2 ふれあいウオーク(予)

⑬ 10.9 シテイマラソン(予)

⑭ 10.23 入舟地区自主防

避難訓練(予)

総務部会



ラジオ体操で「長寿」の会

受賞

代表 本田 雄三

このたび平成28年7月28日(木)

ラジオ体操「長寿」の会は

(株)かんぽ生命保険代理執行社長

石井雅実

日本放送協会会長

初井勝人

NPO法人全国ラジオ体操連盟会長

小野清子

の3氏連盟での表彰状をいただきました。

これはラジオ体操の積極的実践を通じてこの普及発展に貢献し、健康増進に寄与されていることでの表彰であります。日頃より我々が実践している健康寿命(年齢)を高める活動が評価されたものでした。

現在会員50名、入舟地区コミュニティ協議会の活動の一つとしてバックアップするなど今後さらなる会の充実が期待されています。

福祉・文教部会

編集後記

今年も敬老の日をむかえた。高齢化社会と言われて久しいが、年をとることのデメリットが強調されすぎている。体力の衰えは避けられないが、反面、これまでの経験が年輪となって蓄積して”老い故の知恵”がにじみ出てくるものである。

高齢時代の生き方は千差万別で画一的でなく、各人各様である。地域活動などで、自分なりに小さな喜びを積み重ねながら、地に着いた毎日を過ごすことが肝要と思う。

編集委員;鈴木喬、高橋誠一、田村幸夫、明間博隆、古寺昭治、小島良子、野内隆裕、杉山節子、高山ゆり子